

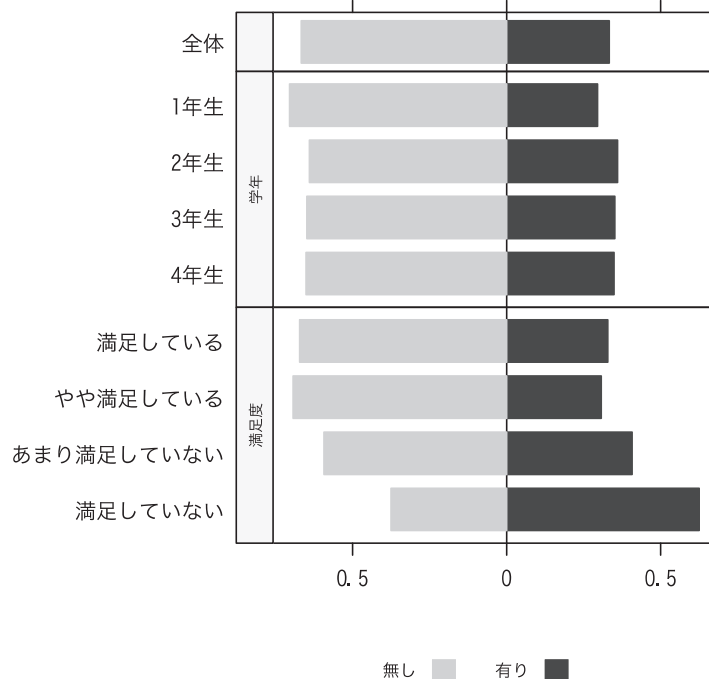
Ⅲ 自由記述のまとめ

ここからは、調査票の最後にもうけられた自由記述設問について、その回答の記述的な分析を報告する。自由記述設問は、「本学での授業や生活について、何か思うことがあれば自由にお書きください。」というリード文のもと、8行（350文字程度）の罫線に回答者が自由に回答するものである。自由記述は、第2回調査（1979年）から継続しているものであり、第16回調査（2010年）、第17回調査（2012年）についてはその内容をPDFでインターネット上に公開しており、第18回調査（2014年）は学内関係者にのみ公開している。個別の回答は、それぞれ生の学生の声として貴重なものであり、ひとつひとつに真摯に向き合っていくべきものであろう。本報告書では、その個別回答のすべてを紹介することはできないので、記述内容を量的に処理した上で、回答およびその回答者の概要と傾向を紹介する。

1. 自由記述の回答者

自由回答欄に何らかの記述があったのは、1143票中381票（約33%）である。第18回調査では約42%、第17回調査では約29%、第16回調査では約34%の有効自由記述回答があった。前回の調査に比べると、自由記述への回答率は低下しているものの、それよりも前の水準に戻っているとみてもよいだろう。学部学年ごとの回答数と回答率は表の通りである。全体として、1年生の自由記述回答率が他の学年に比べると低い。自由記述の有無と満足度（Q1）との関係は、「満足している」で回答率33%、「満足していない」で回答率63%と、満足度が下がるほど記述者が多くなる傾向にある。

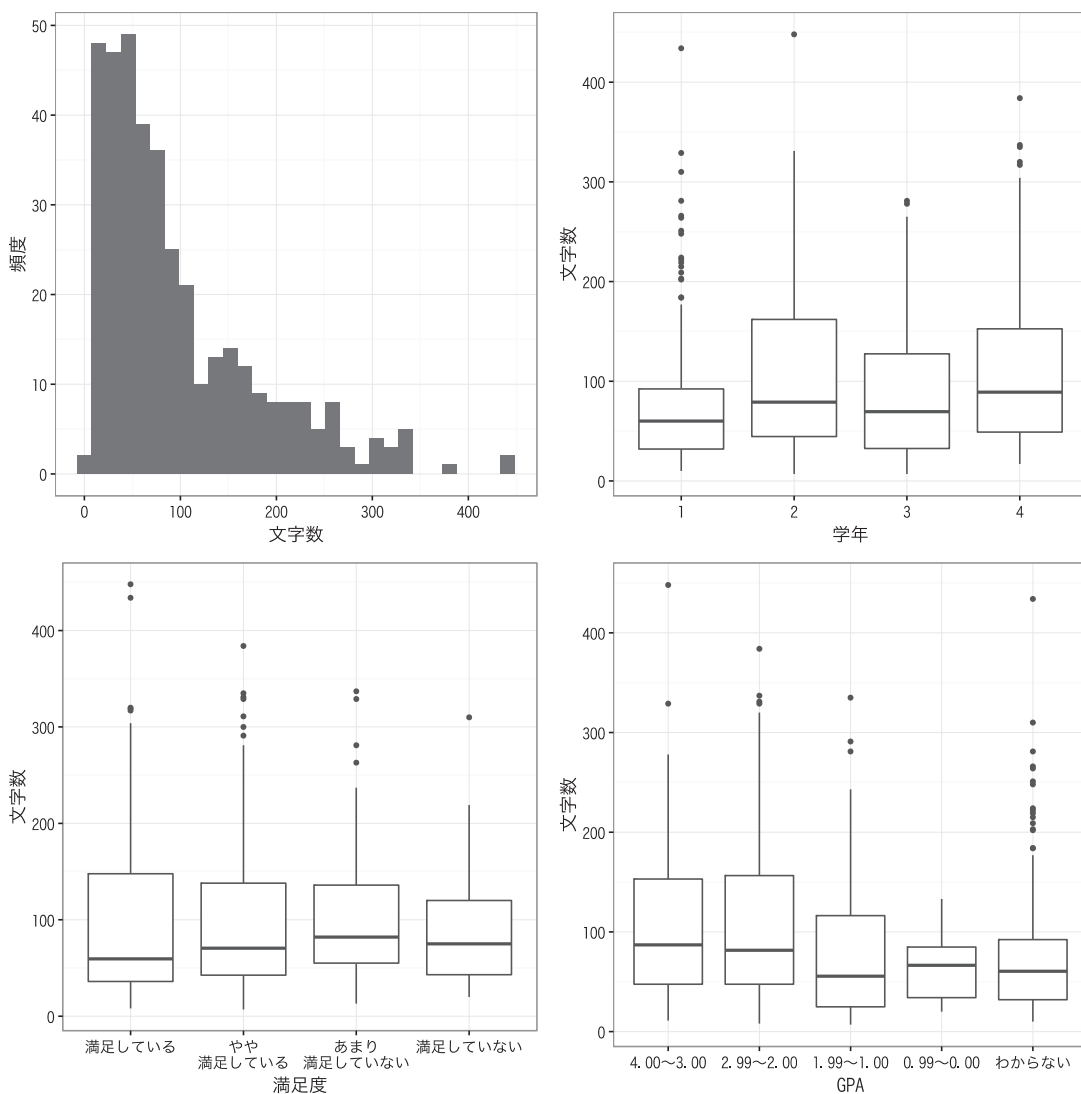
図Ⅲ-1 自由記述の回答者ならびに満足度



2. 自由記述の長さ

自由記述の有効回答における文字数を集計すると、最小値は7文字、最大値は448文字であった。中央値は70文字、平均値は約98文字（標準偏差83）で、多くの回答は複数の文から構成されている。学年別に文字数を比較すると、1年生は平均84文字、2年生112文字、3年生88文字、4年生115文字である。この平均文字数は有効回答の中での平均値なので、1年生は記述率も比較的低いだが、記述量も少ないことがわかる。満足度（Q1）の程度と記述の長さについては、あまり明確な差はない。GPA（F4）と記述の長さとの関係は、「4.00～3.00」で平均110文字、「0.99～0.00」で平均67文字と、成績が良好な回答者ほど長く記述する傾向にある。

図Ⅲ-2 自由記述の頻度・長さ



3. 頻出単語

自由記述に記された文章を形態素解析し、使用されている単語を抽出したところ、全部で28938語、重複する単語を省くと2517語が観察された。単語の出現回数は、最小値1回、中央値1回、平均値9回、最大値で1127回である。自立語で出現頻度が高いものは表Ⅲ-3の通りである。出現回数が多かったのが、「ほしい」という単語（213回）である。漢字の「欲しい」（34回）も合わせると247回出現している。「何か思うことがあれば自由にお書きください」という設問であるが、大学に対するなにがしかの要求を伝える回答が多いことがわかる。次に多いのが「授業」の157回である。「授業」「講義」「科目」「英語」「単位」「履修」「勉強」など、授業に関係する単語が多く並んでいる。「先生」「教授」などは教授者に関する単語、「学生」「人」「生徒」「友人」「留学生」など、学生に関する記述も少ない。前回の自由記述では「生徒」の出現頻度は13回であったが、今回は42回となっている。「キャンパス」「食堂」「バス」「三田」「図書館」「上ヶ原」「トイレ」「聖和」など、キャンパスごとの施設や設備に関する記述も多い。

表Ⅲ-3 頻出単語 (頻度)

ほしい	授業	多い	できる	人	キャンパス
213	157	96	93	93	89
学生	ない	すぎる	大学	食堂	1
81	74	73	72	68	65
バス	良い	三田	関学	時間	増やす
51	47	46	45	44	44
教室	図書館	生徒	環境	上ヶ原	0
43	42	42	41	41	40
2	学部	充実	悪い	先生	利用
39	39	38	37	37	37
喫煙	トイレ	聖和	改善	少ない	生協
36	35	35	34	34	34
欲しい	学校	入学	しまう	号館	数
34	33	32	30	30	29
られる	パソコン	高い	受ける	分かる	講義
26	25	25	25	25	24
生活	—	4	考える	やすい	教育
23	22	22	22	21	21
行く	場所	3	いい	シャトル	せる
21	21	20	20	20	20
科目	活動	寒い	教授	言う	限
20	20	20	20	20	20
所	テスト	よい	差	とる	英語
20	19	19	19	18	18
出す	対応	単位	非常	5	レベル
18	18	18	18	17	17
学内	入る	不満	履修	いく	くる
17	17	17	17	16	16
サークル	学費	必要	来る	いただく	くれる
16	16	16	16	15	15
楽しい	甲東園	使う	試験	受講	席
15	15	15	15	15	15
点	内容	聞く	勉強	毎日	おる
15	15	15	15	15	14
お願い	お金	スペース	わかる	以外	作る
14	14	14	14	14	14
使える	事務	設備	大きい	いう	てる
14	14	14	14	13	13
意味	機会	残念	取る	出る	出席
13	13	13	13	13	13
書く	難しい	満足	無料	にくい	快適
13	13	13	13	12	12
後	困る	就職	制度	性	度
12	12	12	12	12	12
部	キリスト	きれい	コンビニ	レポート	安い
12	11	11	11	11	11
関係	好き	私語	授業料	人数	設置
11	11	11	11	11	11
通学	電波	棟	必修	留学生	冷房
11	11	11	11	11	11
たくさん	違う	一般	温度	下さる	学習
10	10	10	10	10	10
事務室	持つ	自由	情報	食べる	全て
10	10	10	10	10	10
昼食	注意	長い	低い	不便	
10	10	10	10	10	

4. 記述内容

これらの記述内容を、LDA (Latent Dirichlet Allocation) に投入してトピックを抽出してみた。トピックカテゴリ数を10個に設定し、それぞれの特徴語を抜き出したのが表Ⅲ-4である。

表Ⅲ-4 頻出トピック一覧

充実	喫煙	campus	バス学費	事務	レベル	授業	留学生	施設	温度
関学	喫煙	キャンパス	バス	学生	人	授業	大学	ほしい	教室
大学	授業	聖和	三田	できる	学生	生徒	分かる	食堂	すぎる
良い	非常	生協	キャンパス	人	ない	講義	くれる	図書館	ほしい
生活	号館	上ヶ原	高い	対応	できる	先生	留学生	時間	寒い
楽しい	所	トイレ	シャトル	悪い	学部	受ける	生徒	増やす	教授
活動	悪い	充実	ほしい	改善	少ない	多い	必要	パソコン	冷房
入学	私語	ない	出す	事務	環境	科目	違う	限	温度
入る	注意	学部	学費	利用	レベル	ない	言う	利用	クーラー
充実	自由	使える	甲東園	点	勉強	すぎる	どの	数	設定
てる	スペース	三田	無料	にくい	多い	単位	比べる	欲しい	集中

一つ目のトピックカテゴリは、大学生活が充実しているという記述である。良い、楽しい、などのポジティブな言葉が並ぶ。「関学に来てよかった」、「素晴らしい仲間と出会い、自分の可能性をどんどん広げられる環境だと思った」など学生生活の充実ぶりと肯定的な書き込み内容となっている。

二つ目のカテゴリは、喫煙や私語など、教室内外のネガティブな環境に関する記述である。学内には喫煙所が設置されているが、多くの人が利用する図書館前の道に隣接していることへの指摘や、分煙がされているもののニオイが流れてくるといった書き込みもあった。教室内の私語についての苦言も散見され、特に大講義室での私語に対する意見が多くみられた。

三つ目は、各キャンパスの施設・設備に関する記述である。生協の使い勝手や、キャンパス内で必要な施設への要望、他キャンパスとの比較といった内容である。特に聖和キャンパスに関してはトイレが快適でないことや図書館の開館時間が短いこと、食堂でICカードを使えないことへの不満などが意見としてあった。

四つ目は通学バスや学費に関する記述である。甲東園と上ヶ原キャンパス間の移動手段に関する要望、神戸三田キャンパスの交通アクセスの改善などが要望されている。教育学部に在籍する学生の意見として「定期券が梅田-門戸厄神間でしか購入できないため、上ヶ原のセミナーに参加するのが億劫だ」との記述や、神戸三田キャンパスに通う学生からは「上ヶ原キャンパスの授業やサークルに行くためにお金がかかる」との意見があり、交通費を理由にセミナーなどへの参加をためらう学生が少なからず存在することがわかる。

五つ目は事務室などの学生対応に関する記述である。事務窓口などでの経験が語られており、「相談しづらい」、「もっと学生に寄り添ってほしい」との記述があった。

六つ目は、学生のレベルに関するもので、入試種別により学習意欲に対する差が大きいといった記述もあった。多様な入試制度を背景にして、異なる目的や異なるレベルの学生と共に学んでいく上での困難さが語られている。

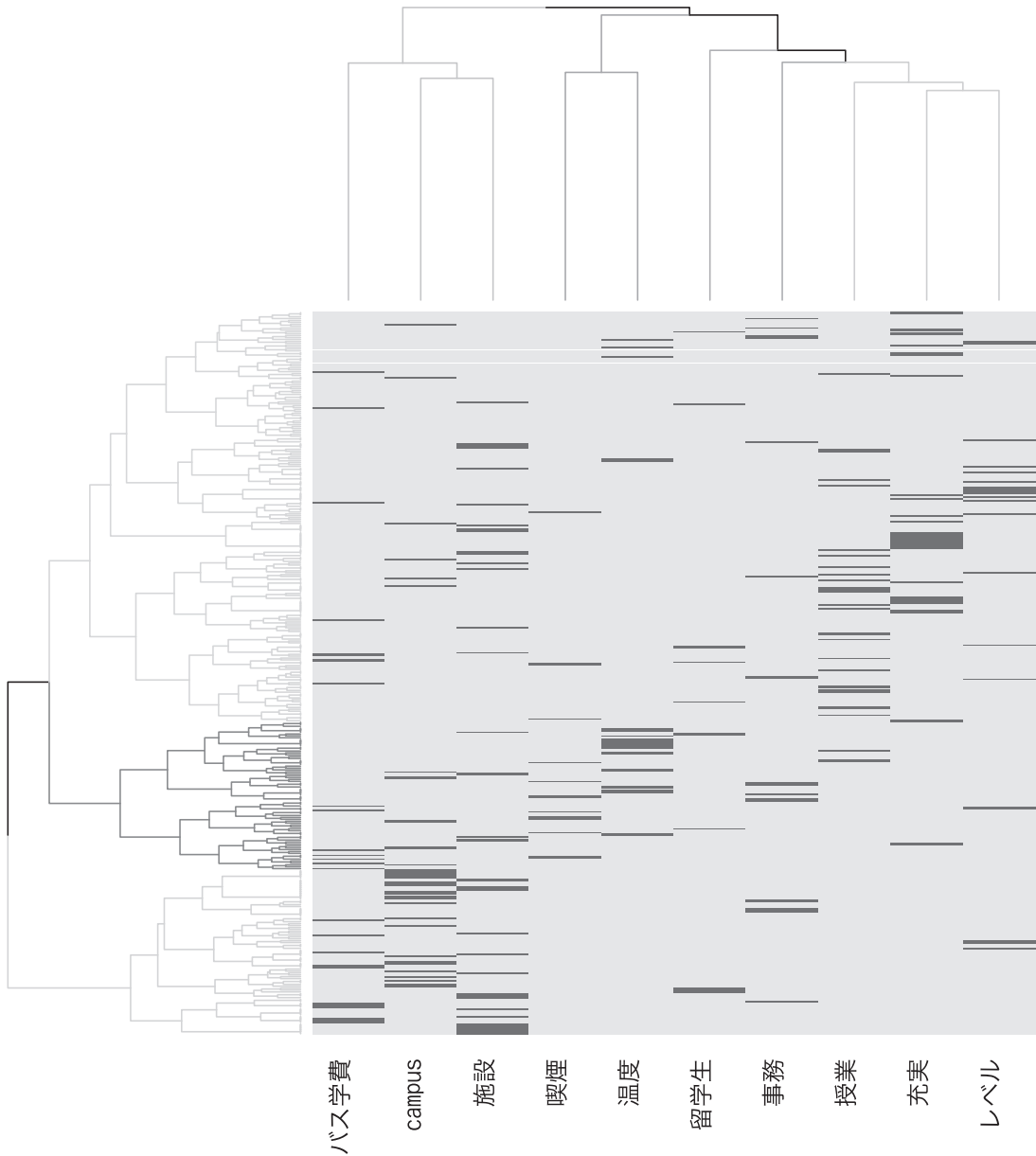
七つ目は授業・講義の内容や環境に関する記述である。シラバスや出席管理に関する要望などが語られており、学生証を使った出席管理を導入することの提案や、出席者と教室規模のバランスについて言及しているコメントもあった。

八つ目は留学生に関する記述であり、留学生、日本人学生それぞれから要望があった。留学生からは「日本人学生と話す機会が少ない」、日本人学生は「留学生ともっと関わりたい」と両者から関わりを求める意見がみられた。

九つ目は食堂や図書館や PC などの学内設備に関する記述である。「食堂の座席を広くしてほしい」、「図書館の PC 設置台数を増やしてほしい」など、いずれも容量の拡充を求める内容である。

十個目は空調に関する記述である。夏季のクーラーを中心とした温度管理に関する要望が語られている。教室ごとの空調管理ができない建物もあるため、調整が難しいところもあるようだ。

図Ⅲ-4 10のトピックカテゴリの含有状況



何らかの記述をしている381人について、10のトピックカテゴリの含有状況を図示したのが図Ⅲ-4である。行則に回答者を、列則にトピックカテゴリを配置し、さらにそれぞれの階層的クラスターを附置した。

充実項目を除けば、それぞれが大学に関して何らかの改善を求める記述となっている。喫煙所や西宮聖和キャンパスのコモンズなど、すでに改善が図られている事項への記述もあるが、それぞれ学生の抱えている考えとして、受け止めていく必要がある。

IV 全体のまとめ

今回の「カレッジ・コミュニティ調査」は、学内の諸施策に資するデータを提供する IR 調査としての役割を担うことを意識して調査企画がなされた。ここまでは、各質問項目について、回答の分布といくつかの回答者の属性（所属学部、学年、性別、GPA、入試形態、居住形態、所属団体）との関係を中心に主に記述的な分析を紹介してきた。最後に、IR 的分析の試みを幾つか紹介して本報告書を締めくくりたい。

1. 海外プログラムへの参加経験と重視することの関係

海外プログラムへの参加を促進することは、世界市民の育成を掲げている本学の教育上、重要な課題となる。海外プログラムへの参加経験（Q22-1）及び参加の際に重視すること（Q22-2）の分布とその属性との関係はすでに第Ⅱ部の27で紹介してある。ここでは、参加経験と重視項目の関係を詳しく見てみる。図Ⅳ-1-1は、参加経験とその重視項目のクロス表を頻度に基づいてヒートマップとして視覚化したものである。頻度が多いセルが濃い色になって表示されている。経験の分布と重視項目の分布から予想できる通り、頻度として多いセルは、「経験がない&カリキュラム・研修内容」である。同様に「経験がない&参加費」、「経験がない&海外プログラムへの参加に興味がない」も多い。では、これらの間にどのような関係があるのだろうか。図Ⅳ-1-2は、同じく参加経験と重視項目のクロス表から標準化残差を算出してその数値を視覚化したものである。標準化残差は、行と列に配置された二つの変数が無関係である状態（期待値）からどのくらいずれているのかを表現する数値である。図Ⅳ-1-2では、正の残差がグレースケールで、負の残差がドットパターンで表示されている。残差を持ち出すまでもないかもしれないが、「海外プログラムへの参加に興味がない」場合には「経験がない」が非常に増加する傾向にある。一方「カリキュラム・研修内容」を重視する場合には「経験がある」が増加する。「参加費」を重視し「経験がない」という回答者は頻度としては多いが、その関係は興味や内容と参加経験との関係の強さに比べると強くはない。「治安」を重視する場合、どちらかという「経験がある」が多くなる。治安を気にするということは、その時点で海外に出かけることを意識しているということであり、参加の有無よりは行き先などを考える材料になることが予想される。


図Ⅳ-1-1 参加経験（Q22-1）と参加時の重視項目（Q22-2）の関連（頻度）

カリキュラム・研修内容	98	61	224	頻度 200 150 100 50 0
実施時期	8	10	32	
留学・研修を実施する国の安全性（治安）	27	18	78	
参加費	28	37	220	
奨学金の有無	3	1	21	
参加時に求められる外国語運用能力	5	14	55	
その他	2	1	7	
海外プログラムへの参加に興味がない	1	0	157	
	参加経験ある	計画していない	参加経験ない	

図IV-1-2 参加経験（Q22-1）と参加時の重視項目（Q22-2）の関連（標準化偏差）

カリキュラム・研修内容	6.72	2.25	-7.07
実施時期	0.10	1.56	-1.23
留学・研修を実施する国の安全性(治安)	2.09	0.64	-2.15
参加費	-3.08	0.10	2.40
奨学金の有無	-0.49	-1.33	1.38
参加時に求められる外国語運用能力	-2.16	1.63	0.53
その他	0.39	-0.27	-0.12
海外プログラムへの参加に興味がない	-5.58	-5.20	8.35
	参加経験ある	計画している	参加経験ない

標準化残差



4
2
0
-2
-4

頻度としては経済的理由が目につくが、関係の強さを考慮するとそもそもの興味関心を喚起することが参加促進に効果を持つと考えられる。「興味がない」という回答者をGPA別に見てみると、GPAが低い回答者ほど「興味がない」を選択する傾向がある。単に海外プログラムへの興味というだけでなく、大学での学びへの取り組み方から手を入れていく必要があるのかもしれない。

2. インターンシップの参加

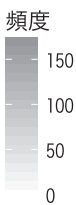
猫の目のように時期や制度が変わる新卒学生の就職活動であるが、このところ企業へのインターンシップが就職活動における比重を増している。すでに第Ⅱ部の38で、参加経験（Q32-1）、その理由（Q32-2）、今後の参加意思（Q32-4）、その理由（Q32-5）についてその分布を紹介している。ここでは、参加経験や参加意思がどのような理由と関係を持っているか分析を試みる。

図Ⅳ-2-1 参加経験（Q32-1）とその理由（Q32-2）の関連（頻度）

職業体験	39	2
業界研究	50	1
マナーなどの社会勉強	13	1
就職活動に有利	35	0
みんなが参加していたから	3	0
インターンシップの選考に落ちた	0	16
公務員・資格試験勉強のため	1	32
大学の勉強を優先した	0	106
他の活動(部活動や実習)を優先した	0	81
興味がなかった	0	178
就職を希望していない	0	13
インターンシップが何かわからない	0	137
その他	3	89

参加経験ある
参加経験ない

頻度



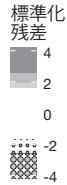
150
100
50
0

図Ⅳ-2-2 参加経験（Q32-1）とその理由（Q32-2）の関連（標準化残差）

職業体験	13.20	-13.20
業界研究	15.38	-15.38
マナーなどの社会勉強	7.36	-7.36
就職活動に有利	12.91	-12.91
みんなが参加していたから	3.70	-3.70
インターンシップの選考に落ちた	-1.89	1.89
公務員・資格試験勉強のため	2.29	2.29
大学の勉強を優先した	-5.18	5.18
他の活動(部活動や実習)を優先した	-4.45	4.45
興味がなかった	-7.09	7.09
就職を希望していない	-1.70	1.70
インターンシップが何かわからない	-6.02	6.02
その他	-3.91	3.91

参加経験ある
参加経験ない

標準化残差

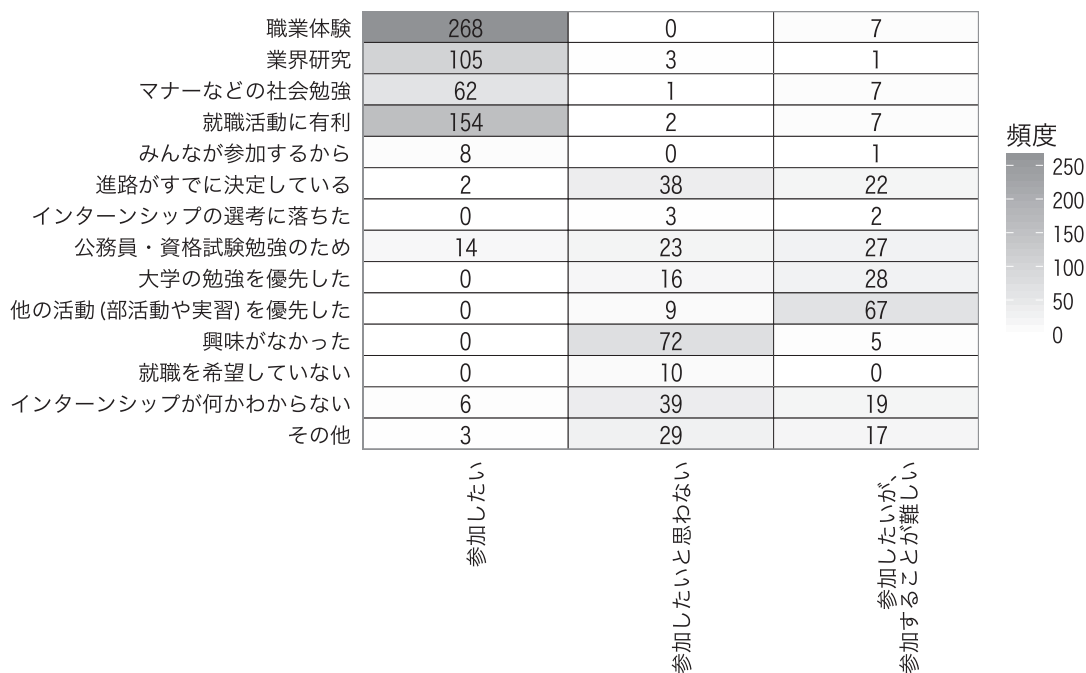


4
2
0
-2
-4

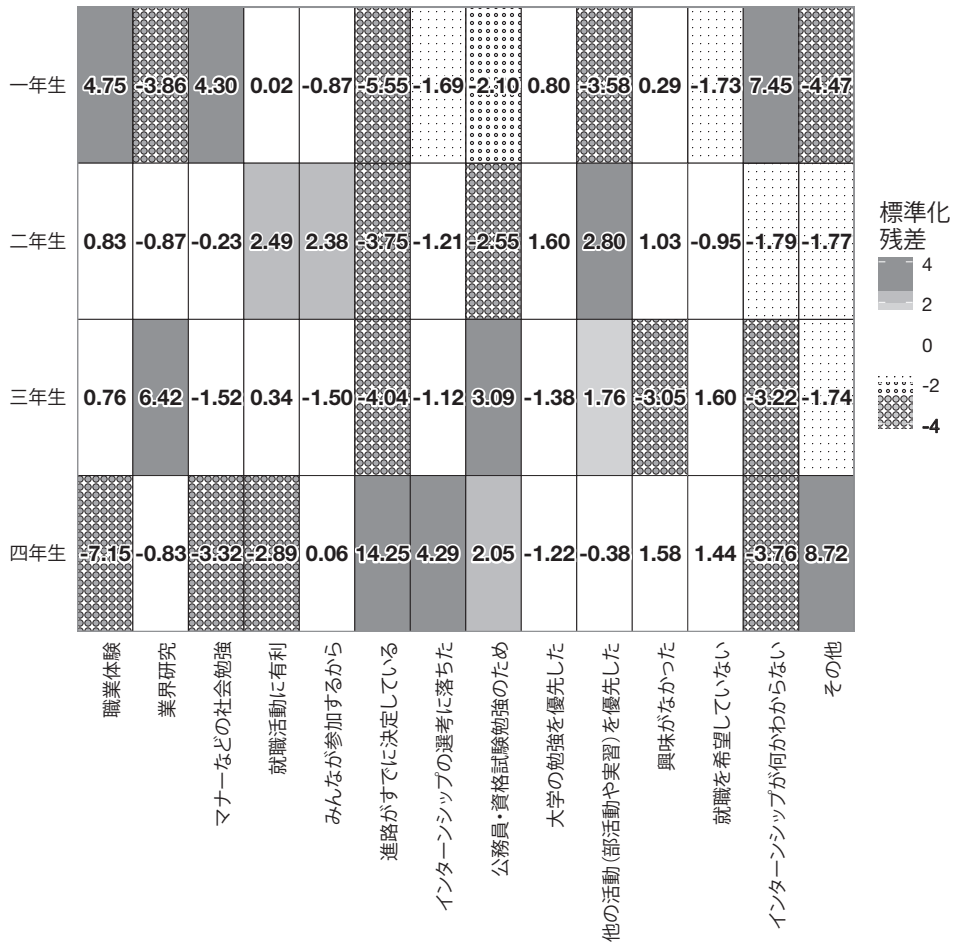
図IV-2-1は、参加経験とその理由のクロス表に基づいて、頻度をヒートマップとして視覚化したものである。頻度として多いのは、「参加経験がない&興味がなかった」「参加経験がない&インターンシップが何かわからない」である。同じクロス表の標準化残差に基づくヒートマップが図IV-2-2である。頻度による視覚化と大差ないが、参加の理由・不参加の理由のうち、どの理由がより強く参加・不参加に関わっているかが解釈できる。不参加については、やはり「興味がなかった」「インターンシップが何かわからない」そして「大学の勉強を優先した」などが強く関係している。一方、参加については「業界研究」「職業体験」「就職活動に有利」の順である。この傾向は、4年生の回答者だけに絞って分析しても同様である。

参加経験については全体で10%強しか「参加経験がある」がないものの、今後の参加意思については、回答者の過半数が「参加したい」と回答している。参加経験の場合と同様に、参加意思についてもその理由とのクロス表からヒートマップを作成すると、図IV-2-3、図IV-2-4ようになる。参加経験の場合と同様に、それぞれ促進要因・阻害要因がみられる。特に、「他の活動(部活動や実習)を優先した」が「参加したいが、参加することが難しい」と関係している。また「興味がなかった」や「インターンシップが何かわからない」が「参加したいと思わない」と強く関係している。興味がなく、その何たるかを知らねば、参加しようと思わないのは当然だろう。図IV-2-5、図IV-2-6は、回答者の学年と参加意思の理由の関係を視覚化したヒートマップである。「インターンシップが何かわからない」は学年が上がるにつれて少なくなることがわかる。また、「職業体験」や「社会勉強」は学年が上がるにつれて少なくなる一方で、「業界研究」は学年が上がるにつれて増えている。就職活動が目前に迫るにつれて、知識は増え意識も明確化して変化していることがわかる。

図IV-2-3 参加意思 (Q32-4) とその理由 (Q32-5) の関連 (頻度)



図IV-2-6 回答者の学年（F2）と参加意思の理由（Q32-5）との関連（標準化残差）

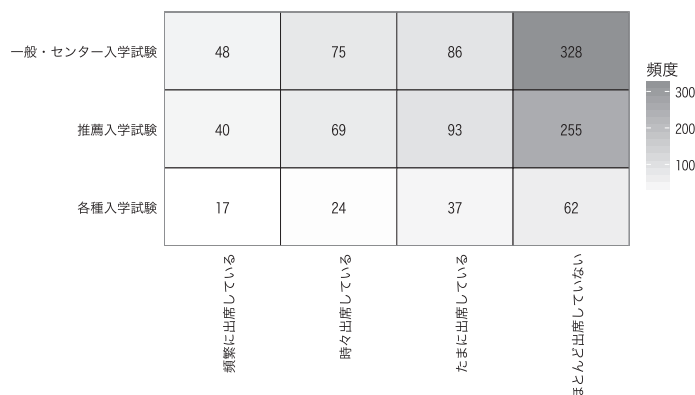


3. キリスト教教育

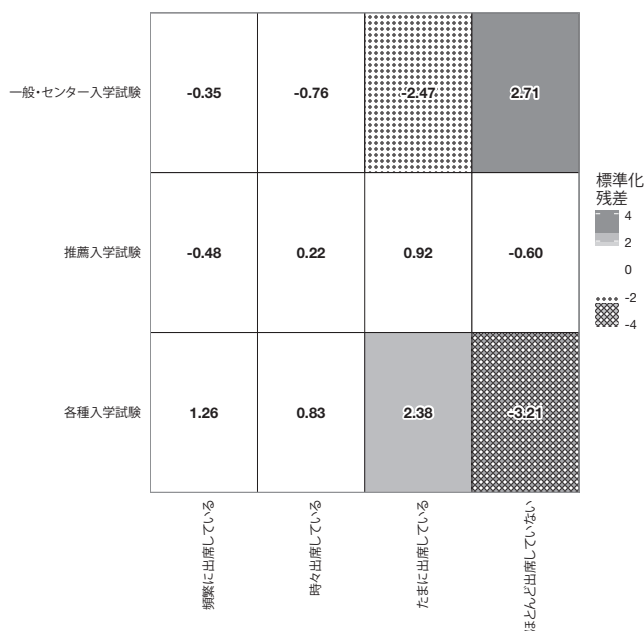
関西学院は、キリスト教主義に基づく教育がその根幹にある。しかし第Ⅱ部の13での分析の通り、キリスト教に触れることからの影響（Q11）は、全体としてそう大きいとは言えない。チャペルへの出席は、1年時を頂点にして上級生になるほど下がっていている。調査票末尾の自由記述においては、7件と少ないながらも、キリスト教教育に関する否定的な意見（キリスト教を必修科目とすべきではないなど）の記述があった。世界人口の3分の1が信仰しているとされるキリスト教について理解を深めることは、自らの信仰の如何にかかわらず、世界市民としての素養といえる。ここでは、キリスト教教育に関連する要因を概観していく。

第Ⅱ部の14では、チャペルへの出席（Q12-1）とチャペルの意義（Q12-2）について、関係があるという分析が紹介された。同様に、チャペルへの出席とキリスト教に触れることからの影響についての関係を分析すると、チャペルに出席している回答者ほど影響を受けていると回答する傾向がある。チャペルによく出席する人・しない人の違いはどこにあるのだろうか。

図Ⅳ-3-1 入試形式（F6をリコード）とチャペルへの出席（Q12-1）との関連（頻度）

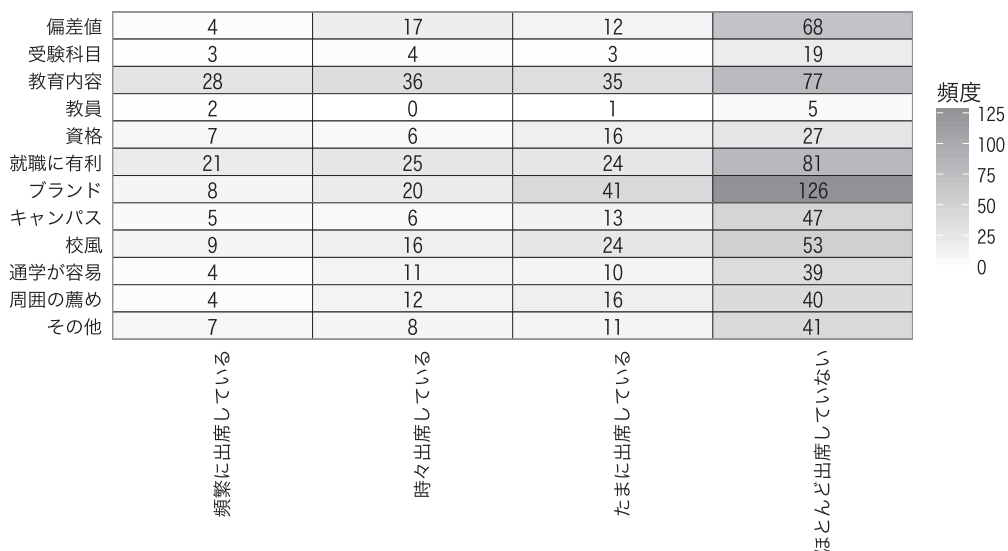


図Ⅳ-3-2 入試形式（F6をリコード）とチャペルへの出席（Q12-1）との関連（標準化残差）

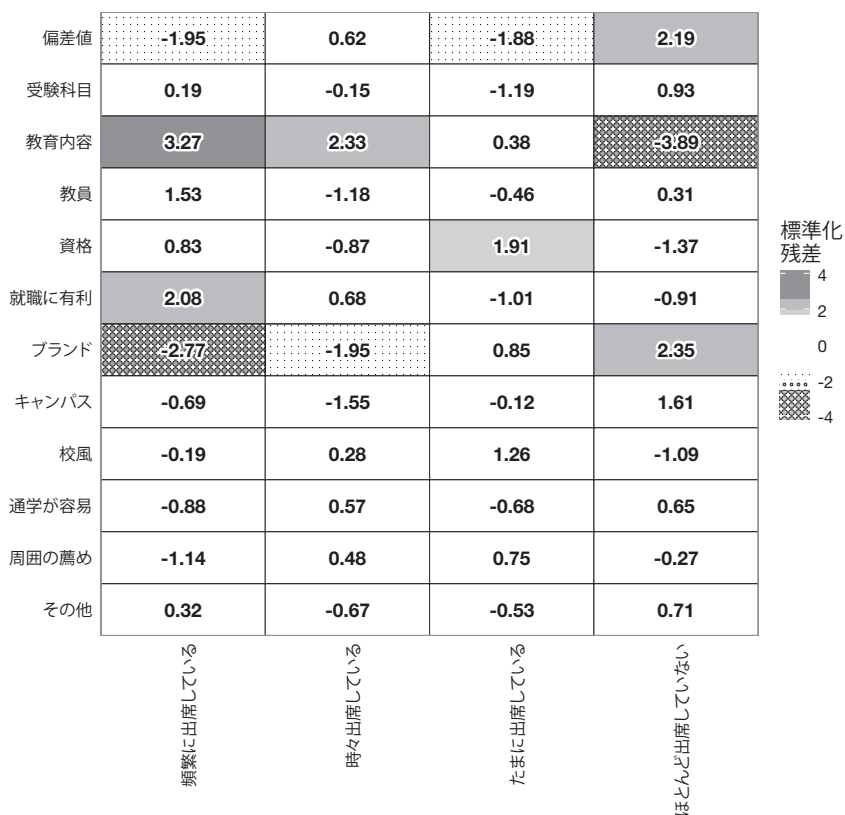


図IV-3-1、図IV-3-2は、入試形式（F6をリコード）とチャペルへの出席（Q12-1）とのクロス表に基づいたヒートマップである。「一般入試」で「ほとんど出席していない」が多くなり、「各種入試」や「推薦入試」で出席者が多くなる傾向にある。院内の高校や一部の指定校では、高校時代からキリスト教教育に親しんでいる可能性が高いことが一つの要因として考えられる。

図IV-3-3 入学時に重視した理由（Q13-1）とチャペルへの出席（Q12-1）の関連（頻度）

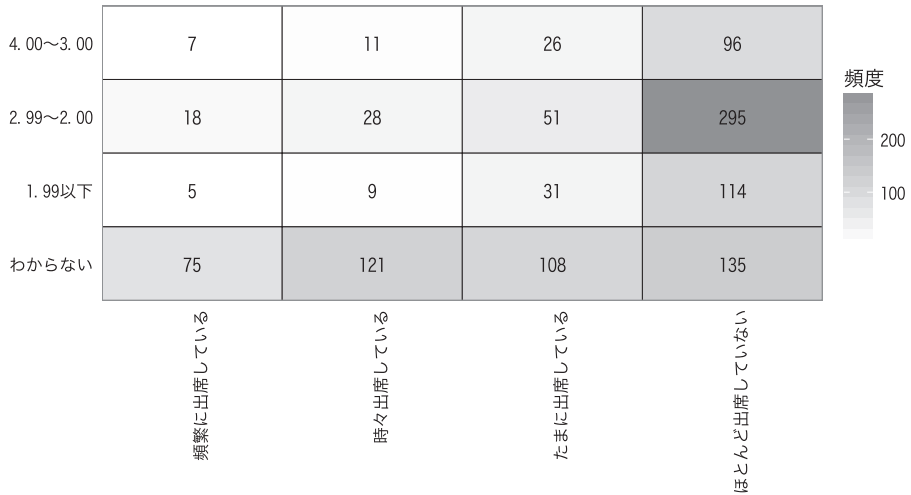


図IV-3-4 入学時に重視した理由（Q13-1）とチャペルへの出席（Q12-1）の関連（標準化残差）

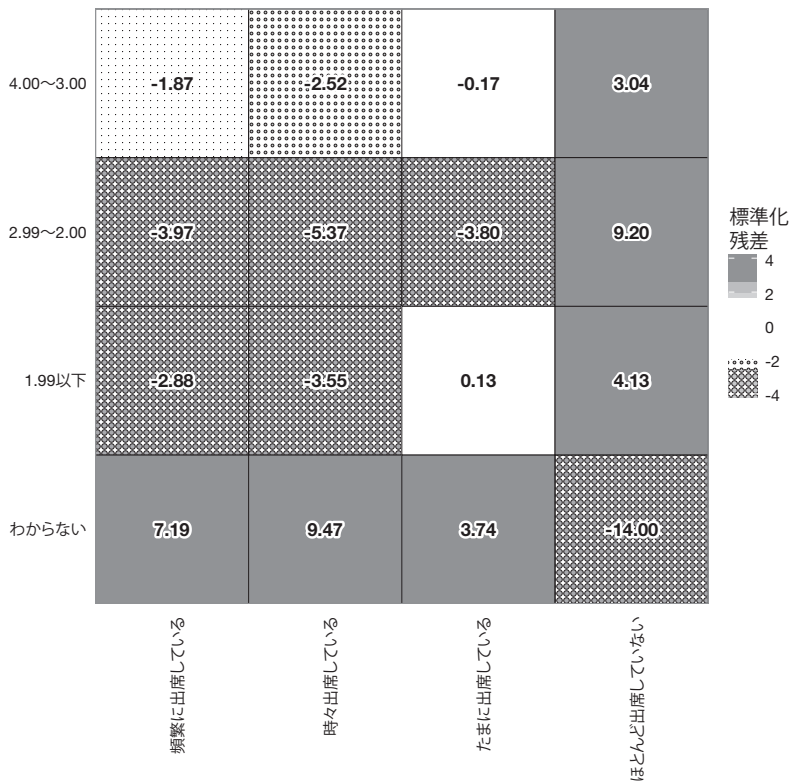


図IV-3-3、図IV-3-4は、入学時に重視した理由（Q13-1）とチャペルへの出席（Q12-1）とのクロス表に基づいて、ヒートマップを作成したものである。入学時に重視した項目として、「教育内容」を選択した回答者は比較的「頻繁に出席している」が多い。逆に、「偏差値」「受験科目」「ブランド」「キャンパス」などを選択した回答者は、「ほとんど出席していない」が多くなる傾向にある。

図IV-3-5 GPA (F4) とチャペルの出席 (Q12-1) の関連 (頻度)

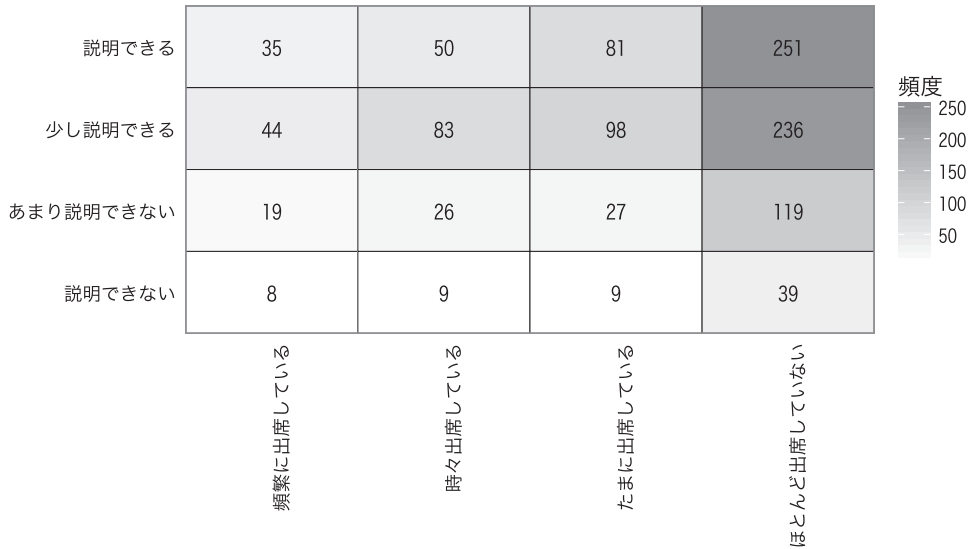


図IV-3-6 GPA (F4) とチャペルの出席 (Q12-1) の関連 (標準化残差)

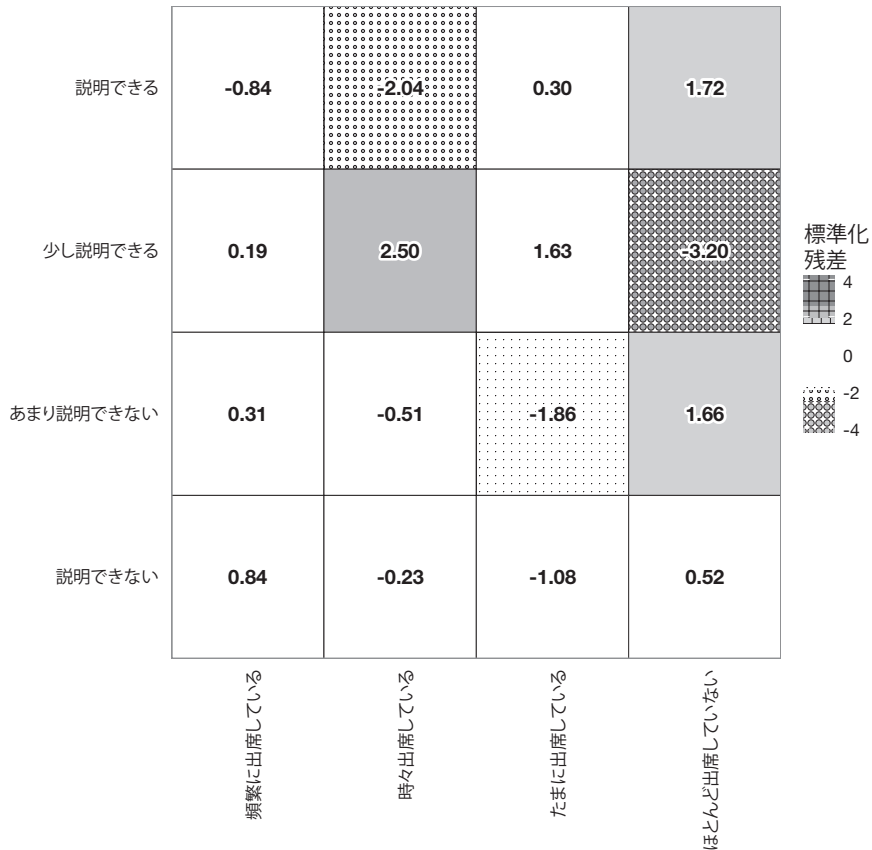


次に、教育成果との関係のみをみよう。図IV-3-5、図IV-3-6は、GPA (F4) とチャペルの出席 (Q 12-1) とのクロス表に基づいたヒートマップである。この二変数のみの関係としては、いくばくか出席している回答者に「わからない」が多くなっている。これは、調査時期が春学期であるため、よく出席する1年生のGPAが「わからない」となっているためである。

図IV-3-7 スクールモットーの説明 (Q 9) とチャペルの出席 (Q12-1) の関連 (頻度)

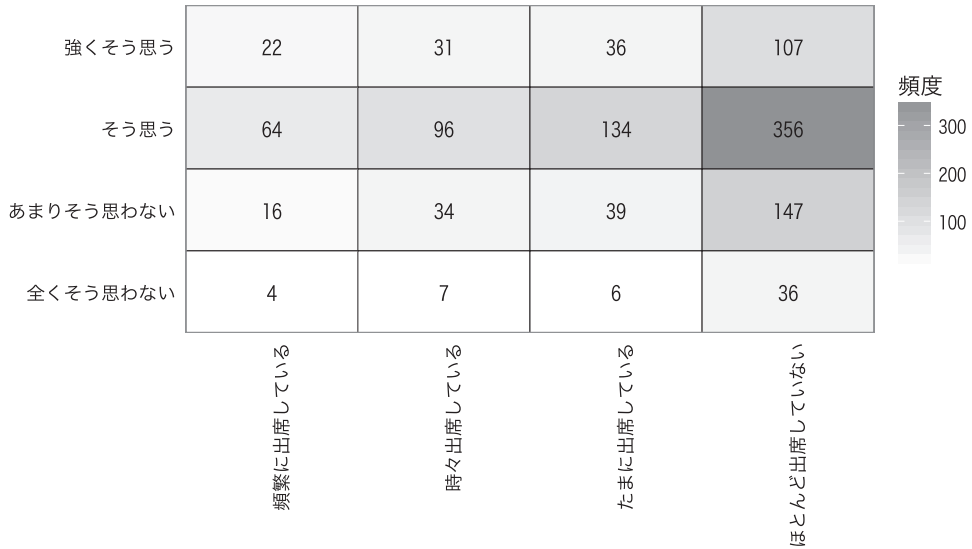


図IV-3-8 スクールモットーの説明 (Q 9) とチャペルの出席 (Q12-1) の関連 (標準化残差)

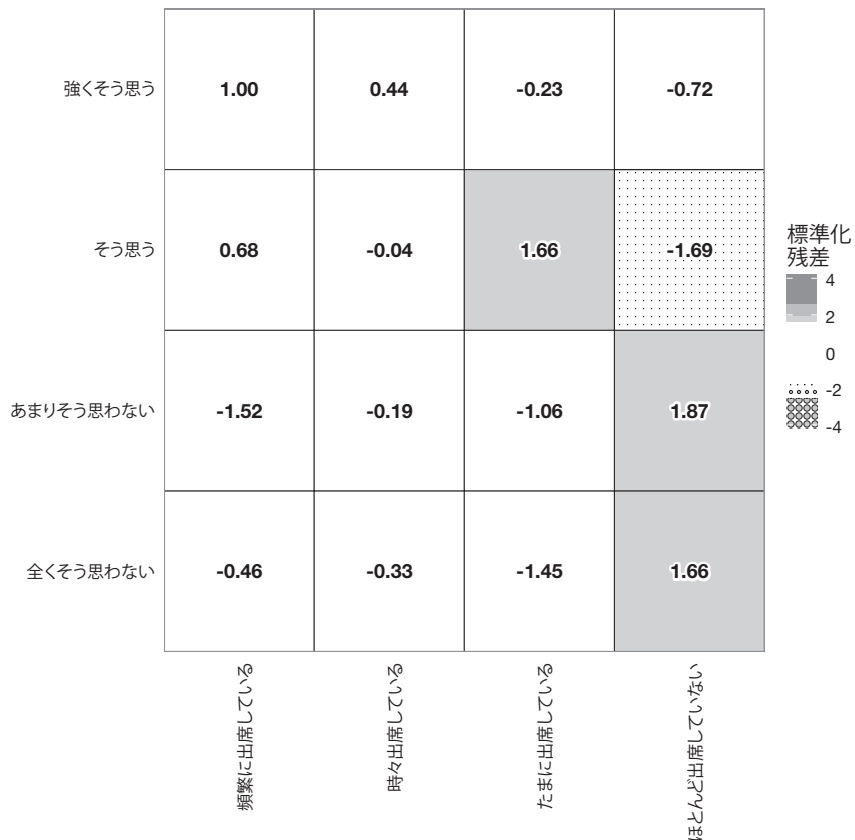


図IV-3-7、図IV-3-8は、スクールモットーの説明（Q 9）とチャペルの出席（Q12-1）とのクロス表に基づいたヒートマップである。どちらかというとう出席していない回答者の方が説明できる傾向にある。これについても、学年の影響があるものと予想される。

図IV-3-9 関学への愛着度（Q8-2）とチャペルの出席（Q12-1）の関連（頻度）

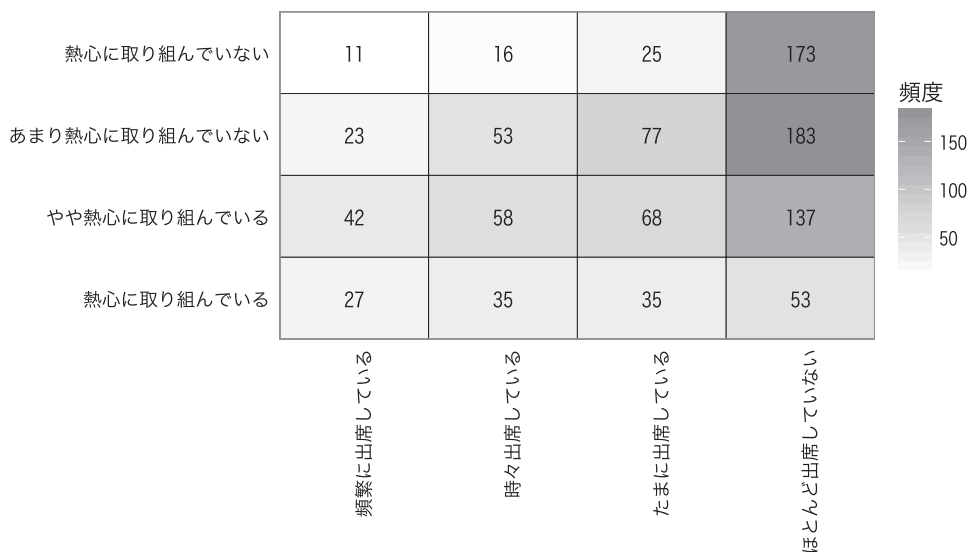


図IV-3-10 関学への愛着度（Q8-2）とチャペルの出席（Q12-1）の関連（標準化残差）

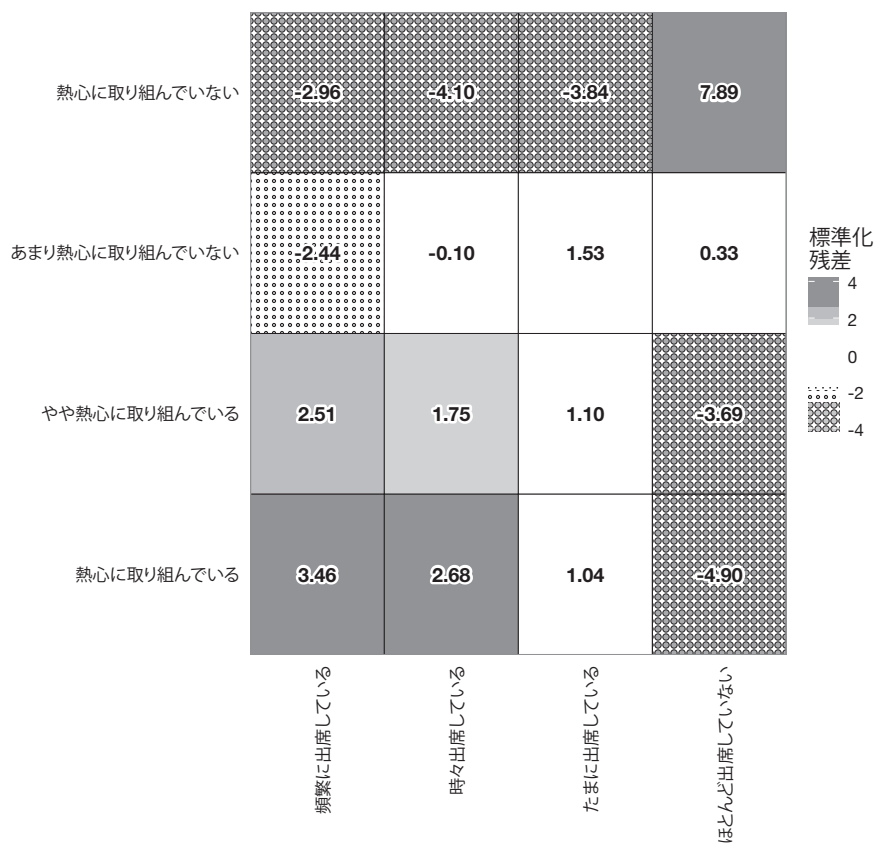


図IV-3-9、図IV-3-10は、関学への愛着度（他者に関学を勧めるか=Q8-2）とチャペルの出席（Q12-1）とのクロス表に基づいたヒートマップである。出席する回答者ほど、他者に強く関学を勧めるという傾向が明確にある。

図IV-3-11 キリスト教科目への取組み度合（Q6-A）とチャペルの出席（Q12-1）の関連（頻度）



図IV-3-12 キリスト教科目への取組み度合（Q6-A）とチャペルの出席（Q12-1）の関連（標準化残差）



図IV-3-11、図IV-3-12は、キリスト教科目への取り組み具合（Q6-A）とチャペルの出席（Q12-1）とのクロス表に基づいたヒートマップである。出席する回答者ほど、キリスト教科目に熱心に取り組んでいる。

ここで、ここまで見てきた変数の中で順序尺度とみなせるものについて、それぞれ二変数間の相関係数を算出し、そこからさらに偏相関係数を算出したものが表IV-3-1、表IV-3-2である。

表IV-3-1 変数間の相関係数

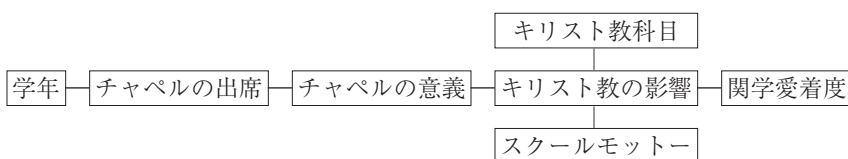
	関学愛着度	スクールモットー	キリスト教の影響	チャペルの出席	チャペルの意義	学年
スクールモットー	0.19					
キリスト教の影響	0.27	0.28				
チャペルの出席	0.05	-0.04	0.26			
チャペルの意義	0.25	0.18	0.58	0.39		
学年	-0.07	-0.17	0.04	0.43	0.15	
キリスト教科目取組	-0.16	-0.18	-0.48	-0.27	-0.44	-0.11

表IV-3-2 変数間の偏相関係数

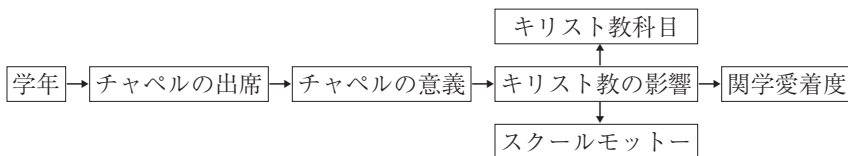
	関学愛着度	スクールモットー	キリスト教の影響	チャペルの出席	チャペルの意義	学年
スクールモットー	0.11					
キリスト教の影響	0.12	0.17				
チャペルの出席	-0.02	-0.06	0.06			
チャペルの意義	0.13	0.05	0.40	0.24		
学年	-0.06	-0.15	-0.06	0.39	0.04	
キリスト教科目取組	-0.01	-0.07	-0.28	-0.09	-0.18	-0.04

ここから、七つの変数間の関連の構造を抽出したのが、図IV-3-13である。

図IV-3-13 変数間の関連の構造



図IV-3-14 変数間の因果関係



ここで、学年はチャペルへの出席に因果的に先行することが論理的に固定されるので、因果グラフの性質上、残りの関連についても因果の方向が導き出される（図IV-3-14）。

ここから、チャペルへ出席することがチャペル出席への意義を増幅し、チャペルに意義を見出すとキリスト教の影響を受けるようになり、そこからキリスト教科目への取り組み、スクールモットーの理解および関学への愛着度（他者への勧め）が芽生えるというメカニズムになる。この分析から言えることは「チャペルへの出席」が様々な「成果」の源になっているということである。変数の性質の都合上、出席の原因となる変数を十分に組み込むことができなかつたが、先の二変数間の分析結果を援用すれば、入学時点において、キリスト教教育ということ強く意識せずに大学選択をした層が、チャペルから遠ざかっている実態がわかる。チャペルへの出席を促進し、そして関西学院が目指す学習効果をより高めるには、そうした「不慣れな」人々をいかにひきつけるかが課題となるだろう。

4. おわりに

今回の調査の企画・実施には、高等教育推進センターだけでなく、学内の様々な部署からスタッフが集まってワーキンググループを構成した。本報告書は、各部署が担当する質問項目を中心に記述的な分析を紹介している。このまとめにあるように、複数の質問項目を重ね合わせて分析することにより、各部局の施策の参考になるような結果が出てくるはずである。さらに、過去の調査結果や学内外の他の調査データと比較検討することによって、本学学生の現状と課題が見えてくる。前回調査からIRを意識した調査内容に大きく変更したが、次回以降も調査内容を見直しながらデータを蓄積していくことが重要である。日常の業務における資料として、この調査データが役立てられればさいわいである。

最後に、貴重な時間を割いて調査票に回答してくれた学生対象者の皆さんに感謝の言葉を申し述べておきたい。

V 資料

第19回 (2016年度)

カレッジ・コミュニティ調査

2016年6月

関西学院大学では、1976年から「カレッジ・コミュニティ調査」を実施し、みなさんの生活の実態、目的意識、価値観などを調査し、分析結果を本学の教育・環境改善に役立てています。

あなたは、全学生から5人に1人の無作為抽出法で選ばれた調査対象者4,590名の1人です。今回の調査に率直な回答をお寄せください。また調査の必要上、すべての質問にお答えください。

調査結果は冊子を作成の上、公表し、図書館で閲覧することができます。また、高等教育推進センターHPでも同内容を公表します。

なお、ご回答いただいた内容は全て統計的に処理されますので、みなさんの回答が他の人に知られることは絶対にありませんし、調査結果を調査の目的以外に使用することは決してありません。

回答の記入方法

- 1 回答項目が印刷されている質問では、自分の気持ちにもっとも近いものを選んで、その番号(数字)を○で囲んでください。
- 2 回答欄が設けられた質問では、選んだ番号(数字)を回答欄に記入してください。
- 3 回答のうち「その他」を選んだとき、あるいは「理由」などを具体的に述べる時は()欄に記入してください。

提出期限 2016年6月30日(木)

提出方法 同封の返信用封筒にて郵送ください。
もしくは、直接、高等教育推進センター(西宮上ヶ原キャンパス 第四別館2F)の回収ボックスに投函ください。
万一、期限に遅れた場合も直接高等教育推進センターに提出ください。

問い合わせ先 関西学院大学教務機構高等教育推進センター
電話 0798(54)7420
メール CCA@kwansei.ac.jp

I. あなたの学生生活などについてお尋ねします。

Q 1. あなたは現在、今の学生生活にどの程度満足していますか。

最もあてはまるものに、1つだけ○をつけてください。

- 1 満足している
- 2 やや満足している
- 3 あまり満足をしていない
- 4 満足していない

Q 2. あなたは授業にはどの程度出席しますか。

最もあてはまるものに、1つだけ○をつけてください。

- 1 履修科目のすべてに出席する
- 2 必修科目はすべて出席し、他は出席をとる科目だけ出席する
- 3 必修科目と必修科目以外から好きな授業科目を選んで出席する
- 4 必修科目のみ出席する
- 5 その他 ()

Q 3. あなたが1週間(7日間)に、下記①～⑥の項目ごとに費やす時間を以下の1から9の中から選択して、記入してください。

①～⑤の活動時間のみを記入し、その他の活動については記入する必要はありません。

⑥は、大学の授業時間を除いた大学での滞在時間を記入してください(②～⑤の活動時間は含めて記入してください)。

- | | |
|-----------------------------|-----|
| ①大学の授業への出席 | () |
| ②授業関連の学習(予習・復習・宿題) | () |
| ③授業以外の学習(専門学校・資格取得に向けた学習など) | () |
| ④クラブ・サークル(課外活動時間など) | () |
| ⑤仕事・アルバイト | () |
| ⑥大学の授業時間を除いて、大学に滞在している時間 | () |

- | | | |
|---------------|---------------|---------------|
| 1 全然ない | 2 週に1時間未満 | 3 週に1～2時間 |
| 4 週に3～5時間 | 5 週に6時間～10時間 | 6 週に11時間～15時間 |
| 7 週に16時間～20時間 | 8 週に21時間～40時間 | 9 週に41時間以上 |

Q 4. あなたが在学中に身につけたい能力は何ですか。

A～Iについて、それぞれ1から4までの数字を1つだけ選んで○をつけてください。

	身につけたい	やや身につけたい	あまり身につけたいとは思わない	身につけたいとは思わない
A プレゼンテーション能力	4	3	2	1
B ディスカッション能力	4	3	2	1
C コミュニケーション能力	4	3	2	1
D リーダーシップ	4	3	2	1
E 集団の中での協調性	4	3	2	1
F データ処理、事務処理能力	4	3	2	1
G 企画・アイデアなどの創造力	4	3	2	1
H 人間関係の構築力	4	3	2	1
I 外国語運用能力	4	3	2	1

Q 5. あなたが在学中に取り組みたいことを2つ以内で選んで○を付けてください。

- | | | |
|--------------|---------------------------|------------|
| 1 専門的な知識の修得 | 2 海外プログラム（留学・外国語研修など）への参加 | |
| 3 資格の取得 | 4 ボランティア活動 | 5 インターンシップ |
| 6 クラブ・サークル活動 | 7 友人を作る | 8 アルバイト |
| 9 その他（ | | ） |

Q 6. あなたは大学の授業科目にどの程度熱心に取り組んでいますか。

A～Gについて、それぞれ0から4までの数字を1つだけ選んで○をつけてください。

	熱心に 取り組んでいる	やや熱心に 取り組んでいる	取り組んでいない	あまり熱心に 取り組んでいない	熱心に 取り組んでいない	該当しない
A キリスト教科目	4	3	2	1	0	
B 一般教養科目	4	3	2	1	0	
C 言語（外国語）科目	4	3	2	1	0	
D 専門科目	4	3	2	1	0	
E ゼミナールや実習	4	3	2	1	0	
F 卒業論文・卒業研究	4	3	2	1	0	
G 資格関連科目	4	3	2	1	0	

Q 7 - 1. 将来の夢や目標はありますか。あれば記入してください。

[]

Q7-2. 将来の夢や目標の実現に向けて大学でどのように取り組んでいますか。

最もあてはまるものに、1つだけ○をつけてください。

- 1 何をすべきかがわかっており、実行している
- 2 何をすべきかわかっているが、実行はできていない
- 3 将来の夢や目標はあるが、具体的に何をすべきかわからない
- 4 将来の夢や目標が明確になっていない

Q8-1. 高校生に戻って進学をするとしたら、関西学院大学を選択しますか。

- 1 はい
- 2 いいえ

Q8-2. あなたは、兄弟姉妹や親しい友人・後輩に関西学院大学への受験や入学を勧めますか。

- 1 強くそう思う
- 2 そう思う
- 3 あまりそう思わない
- 4 まったくそう思わない

Q9. あなたは、スクールモットー“Mastery for Service”の意味を説明できますか。

最もあてはまるものに、1つだけ○をつけてください。

- 1 説明できる
- 2 少し説明できる
- 3 あまり説明できない
- 4 説明できない

Q10. あなたは関西学院が「“Mastery for Service”を体現する世界市民」の育成を使命としていることを知っていますか。

- 1 知っている
- 2 知らない

Q11. あなたは、関西学院でキリスト教に触れることで、自分自身の考え方や生き方に影響を受けていると思いますか。

- 1 強くそう思う
- 2 そう思う
- 3 あまりそう思わない
- 4 まったくそう思わない

Q12-1. あなたは、チャペルにどれくらいの頻度で出席していますか。

- 1 頻繁に出席している
- 2 時々出席している
- 3 たまに出席している
- 4 ほとんど出席していない

Q12-2. チャペルに出席したことは、あなたにとって有意義でしたか。

- 1 強くそう思う
- 2 そう思う
- 3 あまりそう思わない
- 4 まったくそう思わない

Q13-1. あなたが関西学院大学に入学を決める際、最も重視した理由は何ですか。

最もあてはまるものに、1つだけ○をつけてください。

- 1 偏差値
- 2 受験科目
- 3 教育内容
- 4 教員
- 5 資格取得
- 6 就職に有利
- 7 ブランド
- 8 キャンパス
- 9 校風
- 10 通学が容易
- 11 周囲の薦め
- 12 その他 ()

Q15-2. 会話によって、あなた自身にどのような影響がありましたか。
最もあてはまるものに、1つだけ○をつけてください。

- 1 学業に取り組む意欲が向上した
- 2 課外活動、ボランティア活動に取り組む意欲が向上した
- 3 アルバイトに取り組む意欲が向上した
- 4 留学への意欲が向上した
- 5 資格取得への意欲が向上した
- 6 進学への意欲が向上した
- 7 社会人になること（就職すること）への意欲が向上した
- 8 特に影響はない

Q16. 以下の1～9であげるくらし方のうち、あなたが重視する順に3つを回答欄に書いてください。

- | | |
|---------------------------|---|
| 1 経済的により豊かなくらしをめざす | |
| 2 地位と名誉を手に入れたい | |
| 3 有名になりたい | 第1位 <input style="width: 30px; height: 20px;" type="text"/> |
| 4 社会の役に立つような事をする | |
| 5 自分の技能や能力を伸ばしていく | 第2位 <input style="width: 30px; height: 20px;" type="text"/> |
| 6 家族や友人といった人間関係を大切にしていく | |
| 7 心と体の健康を大切にする | 第3位 <input style="width: 30px; height: 20px;" type="text"/> |
| 8 あくせくせずに、のんきにクヨクヨしないでくらす | |
| 9 その他（具体的に： _____） | |

Q17. あなたは授業でレポートの課題がでた場合、どのような手段を参考にして、情報や資料を集めますか。作成するにあたり、もっとも参考にしたものに、1つだけ○をつけてください。

- 1 インターネットの無料サイト（ウィキペディアや質問サイトなど）を参考にする
- 2 インターネット上にある関連論文・図書・新聞記事を参考にする
- 3 図書館が提供するWebデータベースで関連図書・論文・新聞記事を参考にする
- 4 図書館に行って、関連論文・図書を参考にする
- 5 先生に話を聞きに行き、参考にする
- 6 友人や先輩に話を聞きに行き、参考にする

Q18. 図書館の施設・設備環境について、どの程度満足していますか。

A～Cについてそれぞれ0から4までの数字を選んで○をつけてください。

	満足している	やや満足している	あまり満足していない	満足していない	利用したことがない
A 閲覧機（利用のしやすさ、充電環境など）	4	3	2	1	0
B 椅子（快適性など）	4	3	2	1	0
C パソコン（台数など）	4	3	2	1	0

Q19. 図書館の資料やサービスについて、どの程度満足していますか。

A～Fについてそれぞれ0から4までの数字を選んで○をつけてください。

	満足している	やや満足している	あまり満足していない	満足していない	サービスを利用していない	サービスを利用したことがない
A 所蔵資料（図書・雑誌など）の充実度	4	3	2	1	0	0
B 所蔵資料（図書・雑誌など）の配置・探しやすさ	4	3	2	1	0	0
C 電子情報（Webデータベース・電子ジャーナルなど）の充実度	4	3	2	1	0	0
D カウンターサービス（貸出返却カウンター）	4	3	2	1	0	0
E カウンターサービス（レファレンスカウンター）	4	3	2	1	0	0
F OPACオンラインサービス（予約・取り寄せなど）	4	3	2	1	0	0

Q20-1. あなたはラーニングコモンズ（上ヶ原）やアカデミックコモンズ（三田）をどの程度利用しますか。

- | | | |
|---------|---------------------|--------|
| 1 ほぼ毎日 | 2 週に2、3日 | 3 月に数回 |
| 4 学期に数回 | 5 全く利用しない／利用したことがない | |

Q20-2. Q20-1で1から4と答えた方にお尋ねします。利用するときの主な目的は何ですか。

- | | |
|--------------------|-------------|
| 1 ゼミなどでグループ学習をするため | 2 個人で勉強するため |
| 3 サークル活動を行うため | 4 友人と話すため |
| 5 その他（ | ） |

Q21. あなたは留学生や外国人教職員と接する機会がありますか。

最もあてはまるものに、1つだけ○をつけてください。

- | | |
|--------------|------------|
| 1 日常的に接している | 2 たまに接している |
| 3 ほとんど接していない | 4 全く接していない |

Q22-1. あなたは海外プログラム（留学・外国語研修など）に参加したことがありますか。

一度でも参加したことがある場合は、「1 ある」としてください。

- | | | |
|------|----------|------|
| 1 ある | 2 計画している | 3 ない |
|------|----------|------|

Q22-2. 海外プログラム（留学・外国語研修など）の参加を考える際に重視することは何ですか。

最もあてはまるものに、1つだけ○をつけてください。

- | | |
|-----------------------|--------------------|
| 1 カリキュラム・研修内容 | 2 実施時期 |
| 3 留学・研修を実施する国の安全性（治安） | 4 参加費 |
| 5 奨学金の有無 | 6 参加時に求められる外国語運用能力 |
| 7 その他（ | ） |
| 8 海外プログラムへの参加に興味がない | |

Q26-1. あなたの大学での昼食の実情について、最もあてはまるものに1つだけ○をつけてください。

- 1 生協食堂など学内の食堂で買って食べる
- 2 学内で弁当や惣菜を買って、学内で食べる
- 3 自宅から弁当を持ってきて、学内で食べる
- 4 学外の飲食店で食べる
- 5 食べられない（理由： _____）
- 6 食べる必要がない
- 7 その他（ _____ ）

Q26-2. 学内で昼食をとる場合、どこでとることが多いですか。最もあてはまるものに、1つだけ○をつけてください。

- 1 生協食堂など学内の食堂
- 2 キャンパスの建物内（教室やラウンジなど）
- 3 キャンパスの屋外（ベンチや芝生など）
- 4 その他（ _____ ）

Q27. 本学のアメニティ（生活環境の快適さ）について総合的にどう感じますか。

A～Fについて、それぞれ1から4までの数字を選んで○をつけてください。

	快 適 で あ る	や や 快 適 で あ る	あ ま り 快 適 で な い	快 適 で な い
A 教室	4	3	2	1
B パソコン教室	4	3	2	1
C 食堂	4	3	2	1
D トイレ	4	3	2	1
E 図書館	4	3	2	1
F ラーニングコモンズ（上ヶ原）・アカデミックコモンズ（三田）	4	3	2	1

Q28. あなたは、タバコを吸いますか。

- 1 吸う（1日1～5本）
- 2 吸う（1日6～10本）
- 3 吸う（1日11～15本）
- 4 吸う（1日16～20本）
- 5 吸う（1日21本以上）
- 6 吸わない

Q29. あなたは、セクシュアルハラスメントやアカデミックハラスメント等の相談を受ける窓口（相談員）が学内にあることを知っていますか。

- 1 知っている
- 2 知らない

Q30. 授業の合間など授業時間以外をどこで過ごしますか。

最もあてはまるものに、1つだけ○をつけてください。

- 1 空き教室
- 2 パソコン教室
- 3 食堂
- 4 図書館
- 5 ラーニングコモンズ（上ヶ原）・アカデミックコモンズ（三田）
- 6 ラウンジ
- 7 クラブやサークルの部室
- 8 その他（ _____ ）

Q31. 大学が提供しているさまざまなWebサービスや検索システム（LUNA、シラバス、図書館のOPACなど）にアクセスするときに主に利用する情報端末は何ですか。最もあてはまるものに、1つだけ○をつけてください。

- | | |
|------------|--------------|
| 1 パソコン（学内） | 2 パソコン（個人所有） |
| 3 スマートフォン | 4 タブレット端末 |
| 5 その他（ | ） |

Q32-1. あなたは大学入学後にインターンシップに参加したことがありますか。

- | | |
|------|------|
| 1 ある | 2 ない |
|------|------|

Q32-2. Q32-1のように回答した理由について、最もあてはまるものに1つだけ○をつけてください。

- | | |
|---------------------|---------------------|
| 1 職業体験 | 2 業界研究 |
| 3 マナーなどの社会勉強 | 4 就職活動に有利 |
| 5 みんなが参加していたから | 6 インターンシップの選考に落ちた |
| 7 公務員・資格試験勉強のため | 8 大学の勉強を優先した |
| 9 他の活動（部活動や実習）を優先した | 10 興味がなかった |
| 11 就職を希望していない | 12 インターンシップが何かわからない |
| 13 その他（ | ） |

Q32-3. インターンシップに参加した日数（実際に企業に出向いた日数）を教えてください。複数回参加したことがある場合は、最も長い期間に○をつけてください。

- | | | | |
|----------|---------|----------------------|----------|
| 1 1日 | 2 2～4日 | 3 5～10日 | 4 11～15日 |
| 5 16～20日 | 6 21日以上 | 7 インターンシップに参加したことがない | |

Q32-4. 今後、インターンシップに参加したいと思いますか。

- | | |
|---------------------|--------------|
| 1 参加したい | 2 参加したいと思わない |
| 3 参加したいが、参加することが難しい | |

Q32-5. Q32-4のように回答した理由について、最もあてはまるものに1つだけ○をつけてください。

- | | | |
|----------------------|---------------------|--------------|
| 1 職業体験 | 2 業界研究 | 3 マナーなどの社会勉強 |
| 4 就職活動に有利 | 5 みんなが参加するから | |
| 6 進路がすでに決定している | 7 インターンシップの選考に落ちた | |
| 8 公務員・資格試験勉強のため | 9 大学の勉強を優先した | |
| 10 他の活動（部活動や実習）を優先した | 11 興味がなかった | |
| 12 就職を希望していない | 13 インターンシップが何かわからない | |
| 14 その他（ | ） | |

Q33-1. あなたは、なんらかのボランティア活動をしたことがありますか。

- | | |
|------|-------|
| 1 はい | 2 いいえ |
|------|-------|

Q33-2. あなたは、今後、ボランティア活動をしたいと思いますか。

- | | |
|-------------|--------------|
| 1 強くそう思う | 2 そう思う |
| 3 あまりそう思わない | 4 まったくそう思わない |

Q34. エクステンションプログラム（学内で実施されている正課外の資格取得、就職支援の講座）についてお尋ねします。AからEのそれぞれについて、あてはまる番号を1つ選んで○をつけてください。

- | | | | | |
|------------------|---|-------------|-------------|---------|
| A エクステンションプログラムを | → | 1 知っている | 2 知らない | |
| B エクステンションプログラムを | → | 1 活用したことがある | 2 活用したことがない | |
| C 受講料が | → | 1 高い | 2 安い | 3 わからない |
| D 講義内容に関心が | → | 1 ある | 2 ない | 3 わからない |
| E 開催時間が | → | 1 合う | 2 合わない | 3 わからない |

Q35. 卒業（修了）後も学びたい講座、プログラムがあれば、有料でも大学で学びたいと思いますか。

- | | |
|------|--------|
| 1 思う | 2 思わない |
|------|--------|

II. あなた自身についてお尋ねします。

F1. あなたの所属学部はどこですか。

- | | | | |
|----------|---------|---------|----------|
| 1 神学部 | 2 文学部 | 3 社会学部 | 4 法学部 |
| 5 経済学部 | 6 商学部 | 7 理工学部 | 8 総合政策学部 |
| 9 人間福祉学部 | 10 教育学部 | 11 国際学部 | |

F2. あなたは、現在何年生ですか。

- | | | | |
|-------|-------|-------|-------|
| 1 1年生 | 2 2年生 | 3 3年生 | 4 4年生 |
|-------|-------|-------|-------|

F3. あなたは、男性ですか女性ですか。

- | | |
|------|------|
| 1 男性 | 2 女性 |
|------|------|

F4. あなたの現在のGPAをお教えてください。

- | | | | |
|---------------|---------------|---------------|---------------|
| 1 4.00 ~ 3.00 | 2 2.99 ~ 2.00 | 3 1.99 ~ 1.00 | 4 0.99 ~ 0.00 |
| 5 わからない | | | |

F5. あなたはゼミナール（初年次ゼミナールを除く）に所属していますか。

- | | |
|---------------|--------------------|
| 1 所属している | 2 所属していない |
| 3 希望したが入れなかった | 4 ゼミナールに所属する学年ではない |

F 6. あなたは、どのような入試で関西学院大学に合格しましたか。

- | | | |
|---|--------------|--------------|
| 1 一般入学試験 | 2 センター利用入学試験 | |
| 3 推薦入学試験（指定校・高等部推薦など） | | |
| 4 スポーツ能力に優れた者を対象とした入学試験、または特別選抜入学試験（スポーツ活動） | | |
| 5 A O 入学試験 | 6 帰国生徒入学試験 | 7 外国人留学生入学試験 |
| 8 社会人入学試験 | 9 グローバル入学試験 | 10 その他 |

F 7. あなたは、いま、どのようなところに住んでいますか。

- | | |
|------|-------|
| 1 自宅 | 2 自宅外 |
|------|-------|

F 8. 通学所要時間は片道どのくらいでしょうか。

- | | | |
|-----------------|-----------------|---------|
| 1 30分未満 | 2 30分以上1時間未満 | |
| 3 1時間以上1時間30分未満 | 4 1時間30分以上2時間未満 | 5 2時間以上 |

F 9. あなたの1か月あたり平均支出額はどのくらいですか。ただし、学費など大学へ納入する費用は含みません。寮生や下宿生は部屋代や食費を含めてください。

十 万 万 千
およそ

			0	0	0
--	--	--	---	---	---

 円くらい

F 10. あなたは、いま学内、学外を問わず何かクラブ、サークルや団体に入っていますか。

なお、複数の団体に所属している場合、あなたが最も重視しているものに1つだけ○をつけてください。

- | | |
|-------------------|-----------------------|
| 1 文化総部・総部放送局・新聞総部 | 2 体育会・応援団総部 |
| 3 宗教総部 | 4 学内のサークル活動 |
| 5 学外の団体・サークル活動 | 6 クラブ・サークルや団体に所属していない |

本学での授業や生活について、何か思うことがあれば自由にお書きください。

ご協力ありがとうございました。

執筆者紹介（掲載順）

平林 孝裕 高等教育推進センター長・国際学部教授
中村 洋右 教務機構事務部課長補佐
時任 隼平 高等教育推進センター専任講師
山田 陽子 教務機構事務部主査
中野由美子 教務機構事務部主査
木村 己 学長室課長補佐
伊藤 香織 総合企画部主事
横川 修 広報室課長
筒井 弘幸 高大接続センター入試課長
徳田 晃一 キャリアセンターキャリア支援課課長補佐
矢橋 洋 キャリアセンターキャリア支援課課長補佐
佐永田千尋 教務機構事務部書記
魚住 英子 大学図書館利用サービス課総合主管
永嶋 恒治 教務機構事務部総合主管
長沼加代子 国際連携機構事務部長（課長（国際協力担当）兼務）
堀口 直親 学生生活動支援機構事務部課長（スポーツ・文化課担当）
山岡 靖明 学生生活動支援機構事務部主事
中野 康人 高等教育推進センター副長・社会学部教授

われわれの大学をよりよく理解するために（XIX）

—第19回(2016年)カレッジ・コミュニティ調査基本報告書—

発行日 2017年3月31日

編集者 カレッジ・コミュニティ調査ワーキンググループ
コンビーナ 平林孝裕

発行 関西学院大学教務機構高等教育推進センター

〒662-8501 西宮市上ヶ原一番町1-155

電話 0798(54)7420

印刷 尼崎印刷株式会社

〒661-0975 尼崎市下坂部3丁目9-20

電話 06(6494)1122